

[illegible]

1989年10月

ポーク文化研究所

担当：小西・村澤

はじめに

今日の消費社会をリードするといわれる20代の独身OLは、「Hanako族」などと呼ばれ、何かと注目されている。時間とお金があり、ファッション・グルメ情報に敏感で、知的な雰囲気にもあこがれる彼女たち。しかし、その彼女たちをただ購買力の旺盛な対象としてだけみるのは一面的である。もう少し、彼女たちの意識に触れ、その行動がどうかを知りたいと思い、対象を絞ってアンケートを行った。

また、結婚観・仕事観に関してもいろいろな設問がされているが、この調査では20代ということとOLということはどう感じているかを中心に質問を設計している。特に結婚観では、首都圏の女性の平均結婚年齢が27歳と伸びてきている今、意図的に20代でなくなる30歳という年齢を結婚の上限にして聞いたみた。

調査概要

1. 目的 20代独身OLの行動・意識について探る
2. 調査対象者 大都市圏の会社に勤める20代の独身OL
3. 調査方法 アンケート留置法
4. 調査期間 8月中旬
5. 対象者属性

<年齢> (平均年齢24.4歳)

年齢(歳)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	DK	
人数(人)	22	31	25	38	48	41	29	25	11	8	4	282
%	8%	11%	9%	13%	17%	15%	10%	9%	4%	3%	1%	100%

(平均勤続年数4.2年)

<学歴>

高 卒……………118人(42%)
専門学校卒……………16人(6%)
短大卒……………77人(27%)
大学卒……………68人(24%)
D K……………3人(1%)
合計 282人(100%)

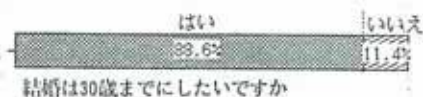
結果の要旨

フツターのOL・キーワード

1. 結婚は30までに、でも今はイヤ
2. 可能なら転職、留学もしたい
3. キャリアウーマンよりフツターのOL
4. したいことはゼッタイ海外旅行！

結果の詳細

1. 生き方・結婚観



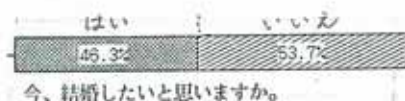
結婚は30歳までにはしたいが、今はしたくない

◆「結婚は30歳までにしたい」女性は、88.6%と9割近くを占める。年齢別でも20～29歳の年齢に関係なく、30歳というのが一つの境になっているようだ。(年齢別の表は省略)

少数派ではあるが「結婚は30歳までにはしたくない」その他の理由は？

(%は「したくない」人が母数)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| ①年齢にこだわらない(9人/27.3%) | ②夫に縛られるのがイヤだから(5人/15.2%) |
| ③相手なし(4人/12.1%) | ④1人の方が気楽、楽しい(3人/9.0%) |
| ④まだ若いから(3人/9.0%) | ⑥めんどくさい(2人/6.1%) |
- など、基本的に「自分の生活リズムを変えたくない」という人が多いようである。



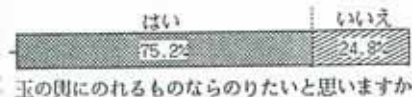
独身のうちにしたいことがある—旅行、遊び

◆「今、結婚したい」かどうかは半数以上の53.7%が「いいえ」。理由は「まだ若いから」が1位。ただし「まだ若いから」と答えた人の57人中48人が20～23歳の女性で、「独身のうちにしたいことがあるから」、「もっと遊びたい」と答えた人は、23～26歳に多く、合わせて16人いた。

「今、結婚したくない」理由(%は「したくない」人が母数)

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| ①まだ若いから(57人/39.0%) | ②相手なし(18人/12.3%) |
| ③独身のうちにしたいことがあるから(15人/10.3%) | ④夫に縛られるのがイヤだから(13人/8.9%) |
| ⑤もっと遊びたい、もう少し遊びたい(6人/4.1%) | ⑥現状に満足しているから(5人/3.4%) |
| ⑥仕事が面白いから(5人/3.4%) | |

「自分だけのことを考えたいから、今は結婚はいらない」という感じだ。中には「朝、早く起きられないから」という理由の人も。また、「相手なし」という理由が2位で意外な感じだが、「自分の結婚相手」という見方をすると、結婚したいのに相手がいないというより、結婚する意志がないからいないだけと思っている人ものでは？

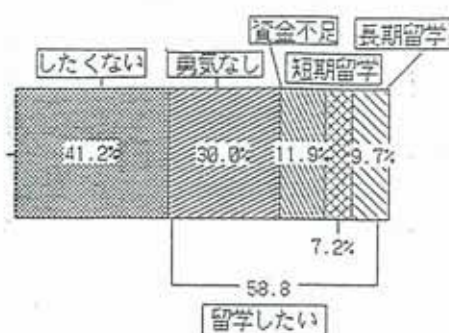


◆「玉の奥にのれるものならのりたいと思う」と答えた人は4人に3人。実際の結婚と結びつけて考えているかは別のして、やっぱりお金はないより、ある方がいいということか？

仕事とプライベートのバランス派

◆「今の生活で仕事とプライベートのバランスはとれている」女性は半分以上(65.2%)。次いで「プライベート中心」が5人に1人(20.1%)



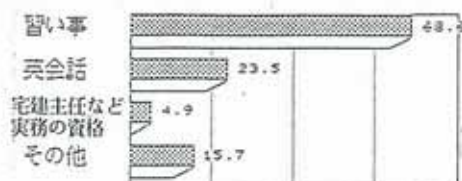


可能なら留学したい

◆積極的に「会社をやめて長期留学したい」人は10人に1人、「休暇を利用して短期留学したい」女性も、ほぼ同数(7.2%)いる。「留学したいと思うが資金不足でできない」、「留学したいと思うが、今の生活を変える勇気がない」人まで含めると留学希望者は半数以上の58.8%。ただし、「留学したいと思うが、今の生活を変える勇気がない」人(30.0%)は何かを学びたくてというより、「なんとなく」行けたら行っていいと思う程度で、留学を海外旅行の延長位に考えているのだろう。



将来のための自己投資をやっていますか



とりあえず何かやりたい

◆「将来のための自己投資」をしている人は約3分の1。そのうち実際にやっているのはいわゆる「習い事」が約7割を占めている。「英会話」は4人に1人。「自己投資」といっても目的が明確なものより漠然とした「習い事」に人気があり、とりあえず何かをやりたいという意識があるようだ。



自分は他人と比べて個性的だと思いますか

「個性的」より、フツーの私

◆「自分は他人と比べて個性的だと思う」人は34.6%と3人に1人。「フツーの○○」という言い方をよくするが、「個性的」より「フツーのOL」として自分をみているようだ。

「個性的だと思う」人に「何が個性的か？」を聞いてみると(母数「個性的だと思う人」)

- ①「性格」(72人/76.6%) ②「趣味」(11人/23.4%) ③「服装」(8人/8.5%)

欲しいものはお金

◆「今、一番欲しいもの」は「お金」、「時間」、「車」の順。車も「乗せてもらう」だけでなく、「自分でも乗る」人が多くなっている表われだろう。

「今、一番欲しいもの」自由意見(％の母数は全体)

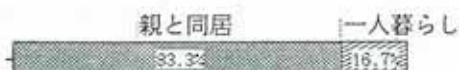
- ①お金(41人/14.5%)
 - ②時間<例:長期休暇>(40人/14.2%)
 - ③車<例:運転手付、ベンツ、ポルシェ>(30人/10.6%)
 - ④彼(7人/2.5%)
 - ⑤家<例:セカンドハウス、庭付、別荘>(6人/2.1%)
 - ⑥免許(5人/1.8%)
 - ⑥ブランドもののバッグ(5人/1.8%)
- その他、ブランドものの時計、ゴルフクラブ、ダイヤの指輪などがあつた。

したいことは旅行

- ◆「今、一番したいこと」は「旅行」、それも「海外旅行」。前述の結婚観で「独身のうちにしたいことがある」人は「今、一番したいこと」に「旅行」をあげている人が多い。

「今、一番したいこと」自由意見（%の母数は全体）

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| ①旅行<例：世界一周、ボーッと休養>（110人／39.0%） | ②遊び、スポーツ（17人／6.0%） |
| ③結婚（10人／3.5%） | ④のんびりしたい（8人／2.8%） |
| ⑤一人暮らし（7人／2.5%） | ⑥将来のための勉強（6人／2.1%） |



「男に養われるのはイヤ」だと思いますか

「一人暮らし」より「親と同居」

- ◆現状は「一人暮らし」（16.7%）より「親と同居」（83.3%）している人が圧倒的に多い。

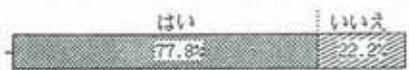
男に養われるのはイヤではない

- ◆「男に養われるのはイヤではない」も82.8%と高率。上記の設問と合わせて考えても、いわゆる「女の自立」ということは、だいぶ違う意識がありそう。「今、一番したいこと」の中に「一人暮らし」という回答があったが全体からみれば2%とごく少数派。

2. 仕事観



転職してランクアップしたいと思っていますか



結婚して、子供がいて仕事を続けている女性は素敵だと思いますか



映画に出てくるようなバリバリのキャリアウーマンにあこがれますか



入社する時、あなたは働くのは「結婚までの腰掛け」という考えを持っていましたか



OLと呼ばれることに抵抗がありますか

できれば転職も考える

- ◆「転職してランクアップしたい」かどうかは59.6%が否定的だが、逆に40.4%もの女性が転職したがっているともみれる。

バリバリのキャリアウーマンはどうも違う

- ◆「結婚して、子供がいて仕事を続けている女性は素敵だ」（77.8%）けれど、「バリバリのキャリアウーマンにあこがれる」という人は少ない（36.9%）。女性が働くことがフツーになり、肩肘張ってがんばるという生き方より、ごく自然に働いている姿が広く支持されているようだ。

結婚までの腰掛けで働いているわけではない

- ◆「入社する時、結婚までの腰掛けとして働くとは思ってはいなかった」（69.1%）し、「OLと呼ばれることにも抵抗はない」（85.4%）。ここでも働くことが当たり前の意識がうかがえる。「腰掛け」という言葉のニュアンスに入社してすぐ辞める感じがあるが、アンケート対象者の平均勤続年数が4年以上ということからも彼女たちが「腰掛け」で働いていないことがうかがえる。

働くことがフツー

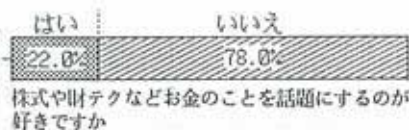
- ◆OLと呼ばれることに異義申立てとするというより、別にこだわらない、フツー感覚がある。抵抗のある人でも、フツーに「会社員」と呼ばれたいが1位。

「OLと呼ばれることに抵抗がある」人の〇〇と呼ばれたい意見（母数は「抵抗がある人」）

①会社員（12人/29.3%） ②特になし（10人/24.4%） ③お勤め（3人/7.3%）

その他、「若い女の子」、「どんな呼ばれ方でも社会人と言われたくない」という人もいた。

3. お金と使い方



財テクの話題より使う方に夢中？

◆「株式や財テクなどのお金のことを話題にするのが好き」は22.0%。「今、一番欲しいもの」は「お金」が多かったが、利殖を話題にするのは意外と抵抗があるようだ。それよりも使うためにこそお金をためると考えた方が妥当かもしれない。

「話題にするのが好き」と答えた女性の中で、その理由は？

- ①「とりあえず、余ったお金を運用したい」（19人/32.2%）
- ②「ほしい商品を買うためにお金を貯めている」（15人/25.4%）
- ③「結婚資金のために貯めている」（11人/18.6%）
- ④「お金を貯めることが趣味」（3人/5.1%）



高級品はアクセサリ

◆「この一年間で高級品を買った人」は40.2%。具体的に買ったものは断然貴金属、それも指輪が1位。中にはマンションを購入した人も。買い方は「ボーナス一括」が1位。「その他」は「キャッシュ」が多い。

*「高級品を買った人」のうち71.2%が海外旅行を経験し（特に複数渡航が多い）、買わない人の海外旅行経験率の59.3%と比べて高くなっている。行き先はヨーロッパ（37.2%/買わない人31.6%）、香港（28.2%/買わない人11.6%）の順。

「この一年間に高級品は何を買いましたか。」（%の母数は「高級品を買った人」）

- ①指輪（41人/36.3%）
- ②ネックレス（26人/23.0%）
- ③宝石（16人/14.2%）
- ④時計（15人/13.3%）
- ⑤車（7人/6.2%）
- ⑥TV、冷蔵庫（7人/6.2%）
- ⑦毛皮（4人/3.5%）
- ⑧バッグ（3人/2.7%）
- ⑨プレスレット（3人/2.7%）
- ⑩エレクトーン（2人/1.8%）
- ⑪マンション（2人/1.8%）



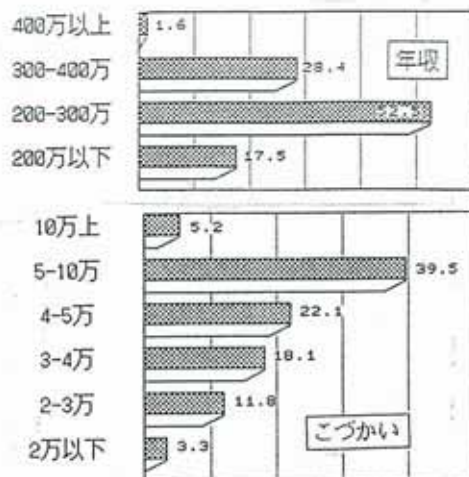
お気に入りブランドはシャネル

◆「お気に入りのブランドがある」人は約3人に1人の36.0%。OLのブランド好きは有名だが、自分のお気に入りブランドはと聞くと案外特定のブランドをあげる人は少ない。「お気に入りブランドがある」と答えた中では「シャネル」が圧倒的に人気。

*「お気に入りのブランドがある」人のうち72.7%が海外旅行を経験し（特に複数回渡航が多い）、「お気に入りのない」人の海外旅行経験率の60.7%と比べて高い。行き先はヨーロッパ（37.3%／ない人31.7%）、香港（28.4%／ない人13.5%）の順。好きなブランド名からもヨーロッパブランドに人気があることから、ヨーロッパや近場の香港でヨーロッパブランドを買っているようだ。

ブランド名（%の母数は「お気に入りのある人」）

①シャネル（19人／19.2%）	②ルイ・ヴィトン（11人／11.1%）	③ディオール（6人／6.1%）
④マリ・クレール（6人／6.1%）	⑤ジュンコ・シマダ（6人／6.1%）	⑥ROPE（5人／5.1%）
⑦ティファニー（5人／5.1%）	⑧エルメス（4人／4.0%）	⑨KENZO（4人／4.0%）
⑩J Pゴルチエ（4人／4.0%）	⑪クレージュ（4人／4.0%）	⑫renoma（4人／4.0%）
⑬ラルフローレン（4人／4.0%）		



年収は200～300万円がピーク

◆平均年収260.2万円。300万円以上的人是30%。

年齢別に見ると、20～24歳で平均231.6万円、25～29歳で平均297.0万円になる。

「日経Woman」（7月号）の「OL貯金白書」調べでは20代シングル女性の平均年収が242万円だったので、サンプルはほぼフツーのOLといえるだろう。

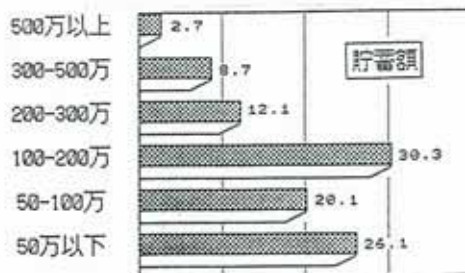
こづかいは「親と同居」者が「一人暮らし」よりリッチ

◆こづかい月平均54,474円。「親と同居」の人は55,244円、「一人暮らし」の人は51,000円。「親と同居」の方が4千円強「一人暮らし」者よりこづかいが多いが、実際には数字にあらわれない親からの援助があると考えられるので差はもっとあるだろう。

*「こづかいに該当するもの」は以下の順。ここであげている%は各項目の「こづかいの占有比」ではなく、それぞれを「こづかいとして考えているか」を聞いたものである。従って、上位にくる項目ほど日常的に彼女たちがこづかいとして使っているものと考えられる。

こづかいに該当するもの（複数回答）

①服代(91.4%)	②食事代(84.9%)	③本・雑誌代(76.7%)
④喫茶代(73.5%)	⑤美容院代(70.3%)	⑥飲酒代(61.6%)
⑦化粧品代(59.1%)	⑧観覧、入場、ゲーム代(52.3%)	⑨旅行代(49.8%)
⑩交通費(40.5%)	⑪習いごと(39.1%)	⑫その他(6.5%)



年齢で差がでる貯蓄額

◆貯蓄平均は150.4万円。「親と同居」の人は153.4万円、「一人暮らし」の人は131.9万円。ここでも差が20万円強でている。年齢別にみると20～24歳では平均97.1万円、25～29歳では平均226.2万円で勤めて1～2年はやはり貯金する余裕などないようだ。前述の「日経Woman」「OL貯金白書」の貯蓄平均174万円と比べると若干少なくなっているが、「100～200万円」がピークになっていることから、ほぼ標準的額なのだろう。

4. 旅行



海外旅行に行く人は何回も行く

◆「海外旅行経験者」は3分の2 (63.8%)。年齢別にみると20代前半の経験率が低く (20~24歳の平均52.2%)、25歳以上では80.7%と8割が経験者。「海外旅行経験者」のうち半分以上の58.4%が複数渡航している。さらに「複数渡航者」の内4人に1人は5回以上の渡航経験がある。

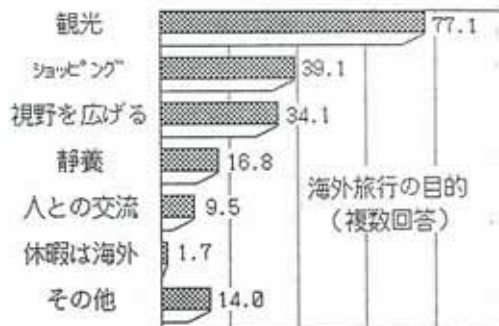
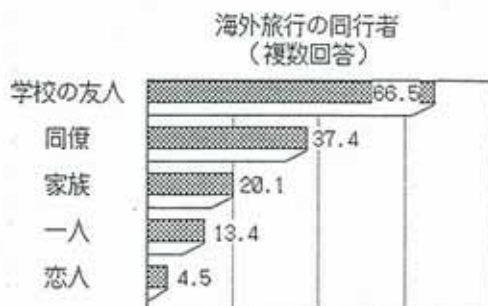
*海外旅行の種類は「エコノミー」が40.1%、「フリープラン」が37.9%、「自分で計画して」が15.3%の順。

海外旅行先 (%は経験者が母数)

- | | | |
|--------------------|--------------------|------------------|
| ①東南アジア (93人/53.8%) | ②ヨーロッパ (59人/34.1%) | ③ハワイ (55人/31.8%) |
| ④アメリカ (45人/26.0%) | ⑤グアム (37人/21.4%) | |

*海外旅行は誰と行くかでは「学校の友人と」が66.5%で断然トップ。

*海外旅行の目的は「観光」が77.1%で1位。(%)は経験者が母数)

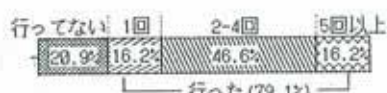


国内もアクティブに旅行を楽しむ

◆「この一年間に国内旅行した人」は8割。そのうち「2~4回した」人が半分近くの46.6%。

*誰と行くかでは、ここでも「学校の友人と」が62.9%で1位。以下「同僚」46.5%、「恋人」14.6%、「家族」12.7%、「一人」6.1%とつづく。

*国内旅行の目的は「観光」(64.8%)、「静養」(43.2%)、「スポーツ」(21.6%)の順。



まとめ

働くことがフツーになり、働き方もフツーになりつつある。キャリアウーマンでなく、OLだって仕事とプライベートは両方うまくこなす。ここでいう“フツー”というのは決して“平凡”という意味でなく、なんか“無理しない”とか“できるんだったらやろうか”とか力まない姿勢だ。だから、親と同居だって、男に養われることだっていいじゃないと軽く受け流す。だからあっさり結婚退職してしまう人がいるかと思えば、フツーに働いていて結婚して、子供を産んでも続ける人もいたりする。一昔前の自分の所得がなくて、必死に「女の自立」を叫んでいたころとはだいぶ状況が違う。これを保守的とする人もいるが、それだけ女性が“仕事や結婚”に対して自然体になったともいえる。

結婚も、義務から自分で選択するものへと変ってきた。「30歳までに結婚しなければ」から「30歳までは結婚したくない」に変化。それまでは独身を楽しみ、独身のうちにできることを思い切りやりたいというのが心情だろう。では実際にやりたいことはというと「旅行」が一番で、そのためにお金と時間がほしいというのがホンネのようだ。気心の知れた「学校時代の友人」とヨーロッパや東南アジアを観光し、アクセサリーやブランドものを買っている時が一番楽しいというところか？

彼女たちはしたいことを実現し、自分だけのことを考えて生活している。そんな彼女たちにも悩みはある。それは「もっといい生き方があるのではないか」という迷いだ。もちろん、マスコミによっての「こっちの水は甘いヨ！」的な誘惑もたくさんあり、迷わされているともいえるのだが。そんな意識が「転職」「留学」願望となって表われてくるのだろう。それに、彼女たちに、「結婚まで」というエクスキューズがもしなくなってしまうたらどうなるだろうという漠然とした不安もあるだろう。彼女たちの旺盛な消費行動も、実はその微妙な意識のもとに成り立っているといえないだろうか。